

〜守ろう。ふるさとの土地〜

耕作放棄地

ストップ



かつては、私たちの生活にしっかりと根付いていた農業。食料の供給、そして労働の場の提供とさまざまな面で社会に対して重要な役割を果たしてきました。また、農地は、農産物を生産するだけでなく、環境保全、水を蓄える、景観形成などの多面的な機能を持っています。しかし、近年は耕作が行われなくなった農地、いわゆる「耕作放棄地」が日本全土で増え続けています。鈴鹿市もその例外ではありません。

そのような中、農業委員会、農業生産法人、地域住民など、耕作放棄地の解消に向けて奮闘する人々がいます。今回の特集では、耕作放棄地の現状や問題について知っていただくために、市内の耕作放棄地の状況とその悪影響を紹介します。そして、鈴鹿市耕作放棄地対策協議会の取り組み、農業で地域活性化を図る人々や農業者の姿を通じて、耕作放棄地の解消について考えます。

データでみる鈴鹿の耕作放棄地

ここでは、データを基に鈴鹿の耕作放棄地の状況をお知らせします。

◆耕作放棄地とは？

「以前耕地であったもので、過去1年以上作付けせず、しかもこの数年の間に再び耕作する考えのない土地」のことを示します。

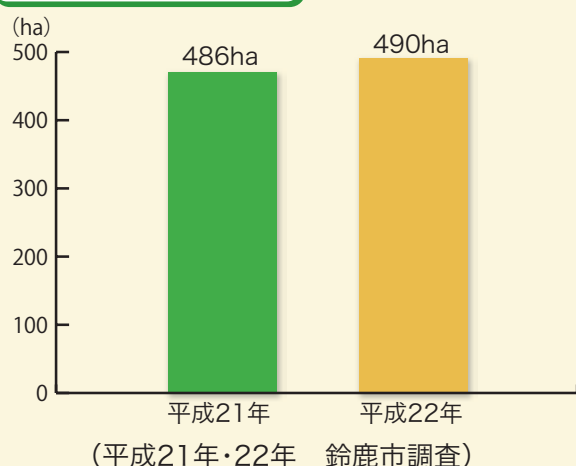
その主な発生原因には、「高齢化・労働力不足」、「引き受け手がいない」、「土地条件が悪い」、「鳥獣被害」などが挙げられ、農業者の努力だけでは解決できない問題です。

今、農地の確保や環境保全、食料供給力の強化を図るために、この耕作放棄地を有効活用することが求められています。



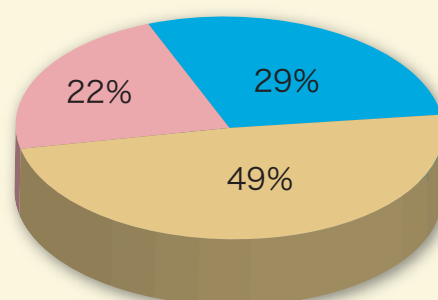
◆鈴鹿の状況は？

①耕作放棄地面積



④農家の後継者はいますか

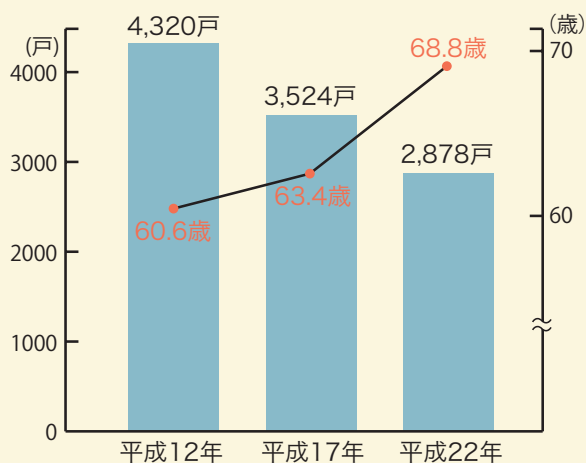
■ いる ■ いない ■ わからない



(平成19年 鈴鹿市アンケート調査)

②農家数

③平均年齢(農業経営者)



(平成12年・17年・22年 農林業センサス)

●増える耕作放棄地、減る農家

○鈴鹿フラワーパークの約50個分

市内の耕作放棄地面積は490ヘクタールで、加佐登町にある鈴鹿フラワーパークの約50個分の面積を占めています(データ①)。市内全体の耕作地面積は4,690ヘクタールなので、約1割強もの耕作地が放棄されていることになります。

○農家は減少傾向

農家数は、平成12年から平成22年までの10年間で約3割強減少しています(データ②)。そして、販売農家の平均年齢は、高齢化の影響を受け、今後も高くなることが予測されます(データ③)。また、後継者がいる農家は約3割にとどまっています(データ④)。

このことから、鈴鹿市においても将来にわたり、耕作放棄地が増加することが懸念されます。